

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	土木部参事（建築住宅課長） 藤原 博	電話番号	0852-22-5216
----------	--------------------	------	--------------

事務事業の名称	しまね長寿の住まいリフォーム助成事業		
目的	(1) 対象	65歳以上の高齢者若しくは身体障がい者が居住する住宅、又は55歳以上の世帯主が居住する住宅をバリアフリーリフォームする者	
	(2) 意図	高齢者等が安全で安心して生活出来るよう、住宅のバリアフリー化を促進する。	
事業概要	既存1戸建て住宅のバリアフリーに要する費用の一部を助成する 【補助要件】 ・バリアフリー化に要する費用の2.3%以内、上限額は40万円（部位毎の上限設定あり） ・バリアフリー化に要する費用が20万円以上500万円以下で、他の工事を含む工事費総額の1/2以上であること ・改修後の住宅が一定の「整備基準」に適合していること		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値		500.0	500.0	500.0	500.0	戸
	式・定義	取組目標値						
	式・定義	助成事業実施数	実績値	393.0				
			達成率	-	-	-	-	-
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	-

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	136,627	175,000
うち一般財源 (千円)	68,313	87,500

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成27年度は500件分の助成事業を予定していたが、助成件数は393件止まりであった。補助対象者の要件に年齢制限を入れ、若年層のみが住む住宅は補助対象から除外したことが影響したと思われる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

年齢制限や工事費の上限を設けたことにより、補助対象が高齢者や低所得者に集中した事業制度となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 事業実施数が予定数に達しなかった。  
事業実績に偏在があり、利用の進まない地域がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 高齢者や低所得者は全体として資金に余裕がないため、リフォームを行わないことが考えられる。事業の周知はこれまで事業者向け中心で行っており、高齢者や低所得者などの利用者に届いていない。  
下水道の普及が遅れている地域ではトイレの水洗化が出来ず、水回りの改修が進まない。
- ③原因を解消するための「課題」
- 高齢者に直接届く周知の方法を再検討する必要がある。  
下水道の供用開始が予定されている地域への周知を重点的に行う必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

高齢者へ制度のお知らせが出来るよう、高齢者へ支援を行う団体などを経由した周知に取り組む。  
下水道部局と連携して、下水道の供用開始が始まる区域を把握し、重点的に周知に取り組む。  
これまで利用してもらえなかったリフォーム事業者や新たにリフォーム事業に取り組む家電量販店へ周知に取り組む。

9. 追加評価（任意記載）